

平成21年度 入学試験問題

国語

九州国際大学附属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てもいいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

— 1 —
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 洗濯のすべてを機械に任せたいからといっても、洗濯した衣類を着用して汚すところまで、「全自動」にお任せしたいとは思いません。なんだか変なことを言うな、と思われるかもしれませんが。自動の機械を求めたとしても、逆にすべてが自動になってしまうことの味気なさが生まれることもあります。

「便利」というのは、ほんの少しの動作で用事がすみ、思い通りの結果に変化すること、自分が行った動作に対して得られる結果が非常に大きいことです。ボタンひとつ、かけ声ひとつ、ハンドルとアクセルを操作するだけで、何百キロも移動できる、お金をやりとりするだけで食べ物が入る、力仕事や細かい**1**仕事をしなくてよい……。そんなことが「便利」の魅力です。ものごとが変化していく過程をじっと見たり、変化の度合いをコントロールする必要はなくなります。過程がどのようなものか知らなくてもすんでしまい、たとえ知ったところで、自分の意志を生かしたり、工夫する余地を見つけるなど、自ら影響を及ぼすことができない場合も多くあります。

自動を歓迎しながらも、**B** わたしたちは頭を使って考えたり、手を使って工夫してものを作り上げることを楽しいと感じる力を持っています。

現在のわたしたちが趣味として行っていることの中には、昔の人たちが生活のための生業なりわいとして行っていたことが少なくありません。釣りやキャンプ、カヌーなどのアウトドア・レジャー、キノコ狩り、木の实拾い、日曜大工、陶芸や板金ばんきんなども生活するために必須の作業ひつやす。その中から環境を整えたり道具を作る技術が生み出されました。縫い物や編み物やパッチワークは、寒さや危険から身を守る衣服を作るのに必要でした。

「アウトドア・レジャー」ということばがあるのは、世界中でも限られた国だけだそうです。アウトドアを「レジャー」として位置づけることができるのは、あまりにも便利さが進んでしまっていることを表しています。そして同時に、生活に**2**間をかけたたり自分で工夫したりするのは楽しいことなのだを教えてくれているようにも思います。

もっともつと便利にと「多くの自動化」を求めても、**C** そのありがたみが薄れたり、味気なさを感じることもあります。**4** 自動化して楽をしたいというのも生活や未来を作っていくことのひとつですが、自動だけじゃつまらない、と考えるのも、未

来のひとつです。また、便利さをお金で買うのもひとつの選択ですが、できるだけ多くの工程を自分の手で行うこともまた、創造的で楽しい仕事です。

(佐倉統・古田ゆかり『おはようからおやすみまでの科学』より)

問一 — A C にあてはまる最も適当な語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア やがて イ いくら ウ 一方で エ つまり オ では
- カ 決して キ なぜなら

問二 — 1 2 に共通して入る漢字一字を答えなさい。

問三 — ② 「生業」^{なりわい}とは何ですか。本文中からその意味を説明している部分を、十五字以内で探して書き抜きなさい。

(句読点は含まない。)

問四 — ③とありますが、「世界中でも限られた国」とは、たとえばどのような国だと考えられますか。本文の内容を参

考にして答えなさい。

問五 — ①とありますが、なぜ「味気なさ」が生まれることがあるのでしょうか。

その理由を示した次の文の空欄に当てはまる語句を、本文中から あ、 い はそれぞれ一字で、 う は八字で探し、書き抜きなさい。

あ や い を使って う ことの楽しみが感じられないから。

問六

④にあるように、人々は便利さを求めて技術を開発し、それをさらに進歩させていきました。現在わたしたちは、さまざまな技術の恩恵を受けながら生活しています。しかし、物事には良い面もあれば、悪い面もあります。次に挙げるものが世の中に普及したることによってもたらされた良い面と悪い面をそれぞれ考えて答えなさい。

○インターネット

○電子レンジ

○自動車

問七

本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「便利」とは、少しの動作で用事がすみ、思い通りの結果になることで、物事の変化の過程をもコントロールすることである。

イ 釣りやキャンプ、カヌーなどのアウトドア・レジャーは、昔の人たちの生活を体験するために現代人が作り出したものである。

ウ 縫い物や編み物などは、寒さや危険から身を守る衣服を作るための作業であり、かつては主に女性たちがする仕事であった。

エ 便利さを追求するために「多くの自動化」を求め、それをお金で買うことも、私たち現代人が選択できる未来の形である。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

僕らはがっちりと握手を交わした。ヨットが完成したのだ。船体に清めのお神酒をかけ、小屋から外へ引き出す。デッキにマストを立て、ロープや滑車を取りつける。ペンキも乾き、白と赤に塗り分けられた船体が、午後の日差しを受けてきらきらと輝く。あとは船尾にヨットの名を描き入れるだけだ。竹ちゃんの一年以上にわたる労苦と、僕の二十日あまりの手助けの成果が、海に出る準備を終えて、目の前に静かに横たわっている。

傲慢にさえ見える船首の屹立と、まわりに微笑みを投げかけるようにゆるく撓っていく船体の柔和さとが、見事な調和を保ちながら後方へと流れていく様は、思わず声をあげたくなるほど、美しい安定感に満たされている。安定感にはしかも、満々とした方が秘められていて、いつでも荒海として知られる玄界灘へ乗り出していく、静かな血気が背後に隠されている。凜としたその姿を見ていると、竹ちゃんと僕がこのヨットを造ったのではなく、舟自身が自らの力で今形を成したのが分かる。船名も、すでに決まっている。ニライカナイ号。

ニライカナイとは、沖縄地方の方言で、海の彼方を意味している。海の彼方には楽土があって、神様が住んでいる。神様は年に一度、沖縄にやってくる。それがウンジャミ、海神祭だ。ヨナ爺からその話を聞いたとき、僕らはすぐにヨットの名を、ニライカナイ号にすることに決めた。

ニライカナイ。その言葉の持つ響きに魅せられたから。だが、それだけではない。竹ちゃんはきっと将来、これよりもっと大きなヨットを駆って、文字通り海の彼方へと冒険の旅に出るだろうから、僕もなんらかの形で、例えばヨナ爺が言ってくれたような、物書きとしての空想力や創造力によって、海の彼方へ行きたいと思っている。そんな願いもこめて、僕らのヨットをニライカナイ号と命名したのだ。

竹ちゃんが目を細めて言う。

「できたなあ。やつとできたなあ」

僕が答える。

「ああ、できた。ほんとにできた」

僕は空を見あげ、ため息をついた。空から夏の色がだんだんと消えつつあった。互いに顔を見合わせた。いつまでも完成の喜びに浸っている余裕はなさそうだった。思いのほか帆の製作に時間がかかってしまい、肝心の夏休みが終わりに近づいていたのだ。ここに来る前に僕は、野上源一郎からきびしく、八月二十七日までには絶対、田川に戻ってこいと言いわたされていた。

二十七日に帰るとなると、今日を含めても、正味あと五日しか残っていないから、下手をすると夏休みの最大の目的である、ヨットで航海することも、無人島でキャンプすることも断念しなければならなくなる。それではなんのために、今まで苦勞してきたのか分らない。

ある日ヨナ爺が、いつになく強い口調で言った。

「いいか、たとえヨットができあがつてん、二人だけですぐ海には出られんぞ。舟にはな、それぞれ独特な癖ちいうもんがある。だけん、何日か走らせてみるんことには、それを呑みこむんは難しい。とくにな、帆で走る舟はそれがなおさらきつい」
沖縄生まれのヨナ爺は、子どものころからサバニと呼ばれるクリ舟に乗っていたので、帆で走る楽しさも、難しさも充分に心得ていたのだ。だから二、三日漁を休んで一緒にヨットに乗りこみ、三人でいろいろと試してみようと言うのだった。横で話を聞いていたヨナ婆が、ぼつりと呟いた。

「あんたらは他所様からの大事な預かりもんや。だけん、もしあんたらになんかあったら、わたしらは死んでお詫びせならん」

ぐつと胸に來た。涙が出そうになった。僕はスナ以外の人間に、これほど心配されたことはない。それでも、計画を諦める気にはなれなかった。⑤ 数カ月前の自分を思うと不思議な気がする。気が小さい上に傲慢で、自分の意に添わないことがあるとたちまちつむじを曲げてすねてしまう。そのくせ意志が弱く、なんでもすぐに飽きて、中途半端で投げ出していた僕が、いくらヨナ爺とヨナ婆の頼みであっても、最初からやめるつもりはなかったのだ。ましてや竹ちゃんは、なおさらだった。⑥

ヨナ爺の言うことはよく分かる。ヨナ婆の心配も痛いほど理解できる。でも、二日も三日も試走していたんでは、僕ら二人だけでヨットを操る時間も、無人島で過ごす日々もなくなってしまう。夏休みは来年もある。焦ることはない。大人はそう言うかもしれないが、来年の僕はどうなっているか分らない。年が明けて四月になれば中学生になる。中学生はもう子どもで

はないから、まだ子どもでいられるこの夏のうちに、やり遂げておきたいのだ。

僕はマストに帆を取りつけ、慎重にあげる。海から軽やかな風が吹きつけてきて、帆がわずかに孕む。ロープや滑車が小さく軋み、船体がかすかに傾く。僕は船べりに腰をかける。風が発を促し、空が手招きする。決断するしかない。無人島へ行くかどうかの決断ではなく、**I** という、身を切られるようなやる瀬ない決断だが、僕は互いに強く頷き合って腹を決めた。

(上野哲也『ニライカナイの空で』より)

問一 ||| ①、②に含まれる語句の意味として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

① 「目を細める」

ア 心の迷いが取り除かれ、自分本来の姿に立ちもどってゆくこと。

イ かわいらしいものを見たり、うれしかったりなどして、笑顔になること。

ウ 成長や発展を期待し、好意をもって世話をすること。

エ 関心を持ったり、ねらいをつけたりして、そのものに特別に注意を向けること。

② 「つむじを曲げる」

ア 団体生活を規則正しくおこなうとせず、全体の秩序を乱してしまうこと。

イ いっまでもあきらめ切れない様子で不平や理屈を並べ立てること。

ウ 相手がおとなしいのいいことにして、いばったり思い上がった行動をすること。

エ わざと人に逆らい、意地悪な行動をすること。

問二

①について次の各問いに答えなさい。

- (1) 完成したヨットへの自信を示している部分を本文中から三十五字以内で探し、初めと終わりの五字を答えなさい。
- (2) 完成したヨットはどんな特徴を備えていますか。それが述べられている一文を本文中から探し、初めと終わりの五字を答えなさい。

- (3) ヨットを作った目的は何ですか。本文中の語を使って二十字以内で答えなさい。

問三

②はどのようなことを説明しようとしたものですか。次の中から最も適当と考えられるものを選び、記号で答えなさい。

ア 威厳のあるヨットの様子に、製作した少年たちやその作業を支えた人々の情熱が乗り移り、船がまるで血が通った人間のような生き生きとした表情を見せていたこと。

イ あまりに見事な船の出来ばえを見て、本来は意志を持っていないはずの船が自分の意志を持ち、航海に出ようとうずうずしているように感じられたこと。

ウ 何にでも飽きっぽく弱い意志の持ち主であった「ぼく」が、精魂込めてヨット作りに取り組んだ結果、ついに船に人間の意志や感情が宿ってしまった。

エ 製作しているうちに人間の力以外の神の意志のようなものが存在することに気づき、自分たちは作っているのではなく、作らせられているのだと実感してしまった。

問四

③のように命名した理由を五十字以内にまとめて説明しなさい。

問五 ———— ④の動作に込められた意味の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 達成感にひたり、お互いの健闘を励まし、信頼を深め合おうとすること。
- イ お互いに相手の持つ誠意に気づき、感謝したいと思っ**て**じつと見つめ合**う**こと。
- ウ 予想外な展開だという意を含んで不安やあせりを隠さずに顔を見ること。
- エ 相手の微妙な変化を見逃すまいとしてじつと視線をそらさず**に**いること。

問六 ———— ⑤について、(A)どのようなことに対して、(B)なぜ不思議に感じているのですか。わかりやすく説明しなさい。

問七 ———— ⑥を別の表現で述べると次のようになります。空欄に適語を補充して完成させなさい。ただし(1)はよく考えて平仮名で答え、(2) (3)は本文中の語句をそのまま抜き出して答えなさい。

「ぼく」で(1 二字) そうなのだから、(2 十字) を経験した竹ちゃんは、いっ**そ**う(3 十一字) と考えられる。

問八 完成したヨットの航海に関連して擬人法が使われている部分を十六字で抜き出して答えなさい。

問九 I に入れるのに最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の力を信じて出航するかどうか
- イ 田川の家**に**急いで戻るかどうか
- ウ 竹ちゃん**の**好意を無駄にするかどうか
- エ ヨットの帆を**全**て作り直すかどうか
- オ ヨナ爺とヨナ婆を裏切れるかどうか
- カ ニライカナイの名を**変**えるかどうか

問十 次の各文は主人公の「ぼく」について説明したものです。その説明として最も適当と考えられるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 厳しい船作りを通して少年はたくましい海の男へと変身し、世の中のどんな困難にも立ち向かい、打ち勝っているだけの強い精神力を持つ少年へと成長した。

イ ヨットを作り上げたことで大きな達成感を味わい、しかも老夫婦の暖かい愛に守られていることに幸せを感じ、かけがえのない時間を過ごしていることを感謝した。

ウ 少年の傲慢で頑固な性格は友情の大切さを知ることによって改善され、彼の心に芽ばえた人間に対する優しさは、島、海、空といった大自然への広大な愛へと発展した。

エ 失敗を恐れず努力を続けた結果、長年の夢が実現したが、決してチャレンジはこれで終わったのではなく、次の目標に向けて再び頑張ろうと新たな意欲に燃えている。

三

次の——部の片仮名は漢字に直し、漢字は読み方を平仮名で答えなさい。

- ① 警笛を鳴らす。
- ② 勇気を奮って実行する。
- ③ 母は不器用だ。
- ④ 機械を操作する。
- ⑤ 不幸中の幸い。
- ⑥ 難民をキユウサイする。
- ⑦ 葉がキク。
- ⑧ テレビがコシヨウした。
- ⑨ 国民にはノウゼイの義務がある。
- ⑩ 八百屋をイトナむ。

国語

九州国際大学
付属中学校

受験番号

氏名

得点

一

問一

A イ

B ウ

C ア

問二

手

問三

生活するために必須の作業

問四

例 技術の発達が進んだ日本やアメリカなどの先進国。

問五

あ 頭い手うものを作り上げる

問六

インターネット
例 良い面 たくさんの情報などでも素早く得られるようになったこと。
例 悪い面 その匿名性から、新たな形の犯罪やいじめが生まれていること。

問七

電子レンジ
例 良い面 調理にかかる時間が大幅に短縮されるようになったこと。
例 悪い面 インスタント食品に頼り料理のできない人が増えてきたこと。

問八

自動 車
例 良い面 移動時間が短縮され、人々の行動範囲も広まったこと。
例 悪い面 その排気ガスが環境破壊の要因の一つとなっていること。

二

問一

④ イ

問二

工

問三

① 初め 竹ちやんの 終わり 助けの 成果
② 初め 傲慢にさえ 終わり されくいる
③ 荒海としま 知られる 玄海灘へ乗り出すため。

問四

イ

問五

言葉の響きに魅せられ、二人の冒険や物書きと違って海
の彼方に行くという願いをも込め、命名した。

問六

ウ

問七

A
以ん前は気が小さい上に傲慢で、自分の意に添わないことがあると怒りまわす。そのくせ
が弱く、何をするにも飽き、中途半端に投げ出していたこと。
B
今は少し前のような性格がなくなり、最後まで努力をし、物事を諦めず、
やりとげようとする強い意志の持ち主になった。周囲が変化していること。

問八

1 さえ 2 一年以上にわたる 労苦
3 やめる つもりはなかった

問九

風が 出発を促し、空が 手招きする。

問十

オ

三

① けいてき ② ふる ③ ぶきよう ④ そうせき ⑤ やいわ
⑥ 救済 ⑦ 効 ⑧ 故障 ⑨ 納税 ⑩ 営